

さわかせ

編集：三和地区社協地域づくり部
発行責任者：三和地区社会福祉協議会
会長 泉水 房治
事務局：三和保健福祉センター内
(サンハート内)

電話：0436-37-7100

sanwa chiku-syakyo

情報アラート
政府はベトナム政府と同国からの介護人材の受け入れ拡大で合意した。一年以内に三千人、二〇二〇年夏までに一万人の数値目標を設け、ベトナム側もこれに協力する。環境整備を急ぐ。
介護分野の人材不足は深刻で、今回の数値目標方式をインドネシ

アなど他国にも広げ、介護人材の確保を目指す。
政府の健康・医療戦略推進本部（本部長・安倍晋三首相）がベトナム政府との間で、この六月に日本への介護の人材受け入れ促進で合意した結果だ。
首相は八月二四日、外国人労働者の受け入

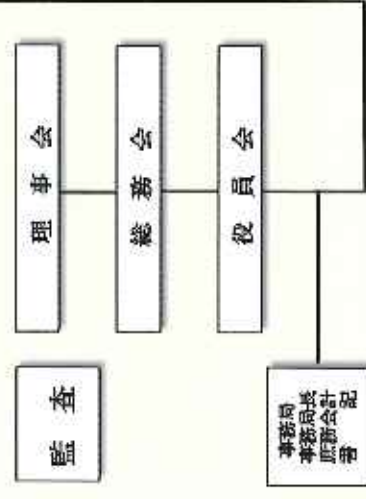
れ拡大への環境づくりを関係関係に指示した。
経済産業省によると一五年に日本の介護人材は四万人足りなかった。外国から一万人来て、三五年には人材不足は七九万人に達するとい

護老人ホームは計画の七割にとどまる。
国際的な人材獲得競争は激しい。韓国は外国人労働者の人数の枠を決めて受け入れを進める。
日本も数値目標を定めて受け入れ拡大を目指すものの、外国人技能実習制度で一定の条件を定めているため、簡単には人数が伸びるかは、わからない。

通信員募集
あなたも地域ニュースを発信しませんか!!
さわかせ編集委員会では地域ニュースの発信者を求めています。(目標:各町会1名程度・応募自由) 対価はありません。あくまでボランティアです! 応募先→三和保健福祉センター→☎37-7100まで連絡願います。

18年度地区社協組織

3部制→6部制へ改編



通いの場契機に 地域へ活力を



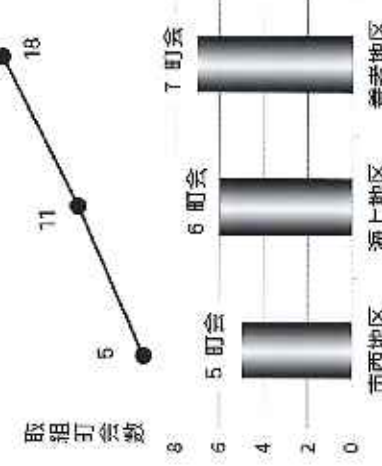
八月九日、地区社協役員会が開催され、間近となった『通いの場』への地区対応最終状況の点検を行った。
対応保留の町会があるものの、一八町会が、既定日程(九月スタート)に沿って実行段階にあること。加えて、計画書

左から泉水会長/安藤氏/佐久間氏/谷氏
<2018.8.9:地区社協役員会議5役+ネットワーク各部長>

市原市・応募締切延長施策

後発グループへも対応促す

18町会が先行スタート



市西地区: 西本町会、口谷町会、堀江町会、西二丁目会、山崎町会
市東地区: 東本町会、東二丁目会、東三丁目会、東四丁目会、東五丁目会
市南地区: 南本町会、南二丁目会、南三丁目会、南四丁目会、南五丁目会
市北地区: 北本町会、北二丁目会、北三丁目会、北四丁目会、北五丁目会

18町会九月へ開催で動く

・予算書の提出状況もオンタイムに進んでいくこと等を踏まえ、準備の整った町会から順次開催していくことを確認した。
また、同会議に同席した市社協担当者より、受付締切(八月中)時点においても応募問い合わせ



佐川氏/御園生氏

わせがある現状を踏まえ、応募受付を十二月まで延長する旨、説明があり、地区社協としても、引き続き後続町会へのバックアップに備えることも併せて確認された。
なお、計画通り九月より住民サービスを開する各地区町会、左図に示す通りであり、各町会長・町会役員を中心にした町会単位のふれあい施策が芽吹き、の時間を迎える。後続町会の奮起に期待したい。

回顧録

本号より、三和地区社会福祉協議会の役員へスポンサーをあて、その半生を4回シリーズで紹介してまいります。

昭和一九年七月、私は当時の満州国大連に生まれた。父が仙台の宮城師範学校を経て、大連の「甘世子小学校」の創設者の一人として立身したことによる。このため、私は、後の昭和二十六年、大陸から引揚げた際に初めてだった。家族は一旦、岐阜

県大垣市に疎開するが、父の仕事の関係から、ほどなく宮城県へ移住。教員として官舎生活となるが転居も多かった。兄弟、妹は五人。兄弟、姉妹は決して楽ではなかった。貧乏ながら、母は明るく近所と接し、互いが助け合う環境にあった。この頃の私は、

野球に熱中し、今で言うリトルリーグで活躍する日々を送っていたが、練習にも徹していた。このため自宅学習では、睡眠に奪われ、机に向かうと寝てしまうこともしばしばあった。ある日、父親に見つかり、ピンタを食った。パンツ一丁で近くの「照源寺」の墓へ放り出されたこともあった。意地を張って深夜まで座り込んでいた私を、母親が迎えに来てくれた。中学一年の思い

出である。厳格な父は怖い存在だったが、教育者としての思いも理解した私は、塾通いをし、習字は日本書院二段、ソロバン二級も取得した。大学進学と就職（警視庁）の選択肢があった。試験はいずれも合格したが、家計への負担と無類の正義感から、迷わず警視庁への道を選んだ。これが後に大変な事態を経験することになる。

【次号へと続く】

谷 光彦 シリーズ①

市原市小域福祉ネットワーク代表
市原市社会福祉協議会理事
三和地区社会福祉協議会理事

新紙面に挑戦

編集委員



御園生 光江



福田 隆一



稲塚 清一



川上 保

社協各部の動きを紹介・企画委員

編集責任者：伊藤 勲夫



小出 満奇男



渡邊 正



進藤 誠



高山 弘



二田口 三津子

三和地区社会福祉協議会では、一八年度の組織改編（一面下段参照）に伴い、取組みの一環として広報活動を充実させて参ります。地域のみなさまとの双方向の

情報交流を深め、広報紙『さわかぜ』が、住民のみなさまと地区社協を結ぶパイプ役を果たせるよう、紙面の工夫に努めます。ご意見もお待ち致しますヨ！

身近な話題を提供・通信委員



有施 嘉徳



濱田 佐代子



白井 美奈子



中田 三千代



何木 哲郎



石井 進



黒沼 純



金杉 三四子

きっかけは最高の食事！

新生町会 高石 静江さん

『山の魅力？感動は語る。元々は山に



〔静江さんとご主人の登山さん〕

関心があった訳ではないと言う。彼女が山に魅せられたきっかけは、友人に誘われて西沢溪谷に出かけた時だった。『大自然の中で、の食事、最高だった！』本格的な登山の趣味を持つご主人の影響もあり、以来、登山グッズを揃えるうちに、『また行こう』という衝動に駆られたそう。燕（つば

くろ）岳から、常念岳への縦走路は、天井を歩いている気分。この稜線は、高山植物の宝庫で、正に自然の絨毯のようだと語ってくれた。『きつくはないの？』『それは大変よ。でも、それに耐えて頂に立った爽快な気分は解らないと思うわ』彼女は現在六七歳。毎年五月は週沢（からさわ）に行くと言う。【取材・布施通信員】

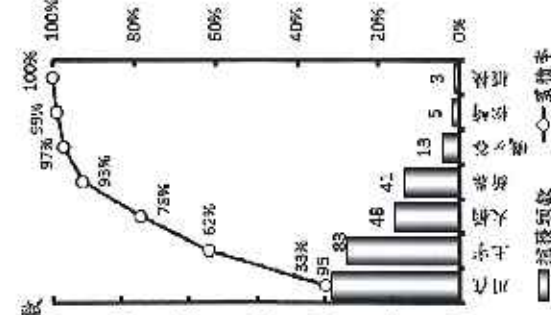
本号より、通信員のご協力をいただきローカルフラッシュとして身近な人物や話題を掲載してまいります。

昨年288頭捕獲さらに増加か？

お盆の音が聞こえる頃から『早生』の稲刈りが始まった。八月二四日現在、稲刈り後の田んぼがあらちろに見られるようになった。台風情報やイノシシ出没に神経をとがらせてきた『米作り』

も、ようやく最終章を迎える。そこで、農家の悩みの種だったイノシシの捕獲状況取材してみた。昨年度、養老地区で捕獲されたイノシシは二八八頭。川在を筆頭に土宇、大橋、新巻、

17年度養老地区イノシシ捕獲数



群れで行動？一度に三頭

の四町会で全体の九三%を占める。本年度に入り、大橋の捕獲数は四、六月三頭、稲穂が出始まる七月は二七頭と急増。八月末には、昨年の四八頭を超える勢いにある、と駆除対策委員もその増加を懸念していた。【取材・黒沼通信員】